

氏名：日達 真美	実施国：ニジェール	調査研究
----------	-----------	------

活動名称	生後 7 ヶ月以内の子どもに対する授乳行動の決定要因に関する研究
------	----------------------------------

実施期間	2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日
------	--------------------------------

(1) 申請した動機

感染症対策員としてニジェールへ派遣され、村を巡回し活動する中で栄養失調の子どもを見かけることが多く、村人たちもそれを村の健康問題であると考えていた。特に 2 歳未満の栄養失調は長期的な悪影響を与え、未来の世代や国の発展にも影響を与える可能性があり、ニジェールにとって栄養失調は深刻な健康問題である。栄養状態の決定要因としては食料安全保障、十分なケア、健康という 3 点であると報告されている。一方、母乳中には子どもに必要な栄養や移行抗体が含まれていること、さらに衛生的で、授乳による母親と子どもの間の愛情形成効果があり、子どもの良好な栄養状態のために生後 6 ヶ月の完全母乳育児が推奨されている。多くの人が厳しい経済状況にあり、十分な衛生環境の整備がされていないニジェールにおいて、経済状況に関係なく無料で豊富な栄養を得ることができ、衛生的である母乳育児は、ニジェールにおける栄養失調対策として有効で現実的な方法の一つと考え、隊員中は母乳育児の啓発活動を行った。ニジェールではすでに生後 6 ヶ月間の完全母乳育児促進のための介入が多くされていたが、実際に行なっている母親は少なく、自身の活動も治安悪化のため撤退となってしまったことから効果が明らかでないため、どのような要因が母親の授乳行動に影響を与えているのかということ明らかにすることが、今後ニジェールにおいて効果的な母乳育児促進のために必要不可欠であると考え本研究を実施するに至った。

(2) 活動内容概要

- 調査地：ニジェール共和国 首都ニアメ、タウア州ビルニンコンニ県
- 対象：インタビュー；子育て経験のある母親 6 名、伝統的産婆 4 名、医療関係者 2 名
質問紙；生後 6 ヶ月以内の子どもを持つ母親 515 名
- データ収集：
フランス語、現地語（ザルマ語・ハウサ語）の運用能力のある現地人を研究補助員として雇用して以下の調査を行った。
i) インデプスインタビュー
現地の授乳行動の実際と伝統的習慣についてインタビューを行う。
ii) 質問紙調査
基本属性、居住環境、経済状況、ヘルスサービスの利用状況、母乳栄養についての知識・態度、心理状態に関して質問を行う。また、調査の 24 時間前と生まれてから今までに、子どもに与えたものを質問し授乳状況を確認する。



アンケートに協力いただいた母親達

(3) 活動の成果・苦勞した点・反省点等

活動の成果

- ・ 研究報告書の作成（別紙添付）
- ・ 西日本保健医療学界での発表

苦勞した点・難しかった点

- ・ 研究期間中に食糧危機への援助として食糧配給が様々な機関によって行われていた。よって食糧配給のための調査と本研究の調査が混同して考えられてしまった可能性がある。アンケート対象者の女性には、研究地の村長からと、およびデータコレクターからアンケート開始前に、本研究は食料配給のための調査ではないことを説明したが、しっかりと理解されたどうか不明であった。各家庭を訪問するのに家での待機をお願いしたが、人が集まってしまう混乱してしまうこともあった。
- ・ 農村部でのデータコレクターの確保は難しかった。
- ・ 雨季ということもあり、調査グループとして村に行くためには四駆自動車が必要であった。当初、ビルニンコンニ保健局が協力を約束してくださっていたが、管轄地域内でコレラが流行してしまい、車を借りることが出来ず、予定が大幅に変更となった。さらに、それに伴いデータコレクターも調査に参加できなくなってしまった。開発途上国では予定通りに行かないことが多々あるが、短い期間での調査だったので焦った。しかし、元協力隊時代の任地ということもあり、多くの友人に助けられ調査を無事終えることが出来た。

(4) 今後のプラン

- ・ 研究結果のニジェール共和国保健省への報告。
- ・ 保健省栄養部門との本研究結果の検討と今後の調査へ向けて話し合いを行う
- ・ 研究結果の雑誌への投稿
- ・ 母親の産後うつ結果の再検討と結果の執筆